

●年間通じ果実たわわ

南郷町に新しい観光スポットが誕生した。同町賢波の「県総合農業試験場亜熱帯作物支場」。二〇〇二（平成十四）年四月にリニューアルオープンしたばかり。日南市から都井岬、幸島に至る日南海岸沿いにあり、眺望の素晴らしさもあって、多くの行楽客でにぎわっている。

同支場は一九三四（昭和九）年、南郷町津屋野に設置された「県農事試験場南郷柑橘試験地」が前身。七六（同五十一）年に現在地に移転、八三（同五十八）年四月、現在の亜熱帯作物支場となり、五月に「有用植物園」を開園した。南郷町外浦から串間市夫婦浦に向かう日南海岸の途中、小岬の丘の上に位置する。約三十六畝の敷地を有し、宮崎の特産品開発と普及を行う研究機関として、温暖な気候を生かしたマンゴー、完熟キンカン、日向夏など亜熱帯性果樹の栽培技術の確立に貢献してきた。



「トロピカルドーム」。110種の植物が亜熱帯を演出する

県が研究機能の強化と併せて一般の人も身近に亜熱帯植物を楽しめる施設を目指して整備に取り組んだのが九六（平成八）年から。二〇〇一（同十三）年に「トロピカルドーム」が完成。「有用植物園」も再整備した。

「トロピカルドーム」は高さ十七メートルの大きな温室。エレベーターもあってバリアフリーも行き届いている。内部には約百十種の植物がそろう、年間を通して、いつでも鮮やかな亜熱帯植物の花や果実を目にすることができる。

「有用植物園」は亜熱帯性植物の専門植物園。研究成果を多くの来園者に楽しく紹介するため、テーマごとにゾーン構成されている。例えば、園内の最も深い谷あいには木製階段を配した「ジャングルクルーズ」では、ジャングル探検気分が満喫できる。

園内は地形を生かし、約三キロにわたって散策

路がめぐらされている。国道から車で乗り入れることができ、所々に駐車場と展望広場が設けられている。その一つ「峠の駐車場」から東側をながめた夫婦浦小港の景色は絶景。また北側の「オーシャン広場デッキ」からは紺べきの海に浮かぶ大島や岩礁が見下ろせ、その先にかつて中国船がしばしば入港、中世以来の歴史を残す外浦湾が広がる。

同支場とセットで人気を呼んでいるのが支場のリニューアルオープンと同時に開店した道の駅「なんごう」。支場の入り口にあり、地元特産品や名物のマグロ・カツオ料理を提供。海を目の前にした味はまた格別である。

長友禎治